

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 5 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく
お願いします。

記

1 情報の内容

チョウ目害虫による大豆、冬春野菜に対する加害の注意について

2 対象害虫

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ

3 対象作物

大豆、アブラナ科野菜、レタス、いちご等

4 発生状況

9 月中旬に行った大豆の調査ではハスモンヨトウの被害は、1a 当たり白変個所数は
3.6 で平年の約 4 倍と多く、食害度も 36.8 で平年（11.7）に比べ高い（表 1）。特に東
予地域において被害は多くなっている。

県下に設置した性フェロモントラップ誘殺数は、

- ・ハスモンヨトウは 9 月中旬にかけて全ての調査地点（7 地点）で急増しており、5
地点（四国中央市、西条市、松山市、大洲市、西予市）では平年に比べ多い。
- ・シロイチモジヨトウは 9 月中旬にかけて全ての調査地点（5 地点）で急増し、平年
に比べ多い。
- ・オオタバコガは 9 月中旬にかけて増加しており、特に 3 地点（西条市、松前町、大
洲市）では平年に比べ多い。

誘殺数が多くなっている地点では、今後、幼虫による食害増加が懸念されるので注
意が必要である（病害虫防除所ホームページの調査データを参照）。

5 防除上の注意

- (1) 栽培が終了した野菜等では、残渣を適切に処分し発生源とならないようにする。
- (2) 施設栽培では開口部へ防虫ネットを設置し、成虫の施設内部への侵入を防ぐ。
- (3) 卵塊や若齢幼虫の集団加害葉は、見つけ次第、除去する。
- (4) 性フェロモントラップのデータからみた防除適期は、誘殺ピークから 10 日後頃で
ある。
- (5) 幼虫の齢期が進むこと、茎や結球部に潜り込むことにより防除効果が低下するの
で、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を心がける。

表1 大豆におけるハスモンヨトウの食害状況

白変個所数 ^{※1}			食害度		
R6	R5	平年	R6	R5	平年
3.6	0.5	0.9	36.8	13.1	11.7

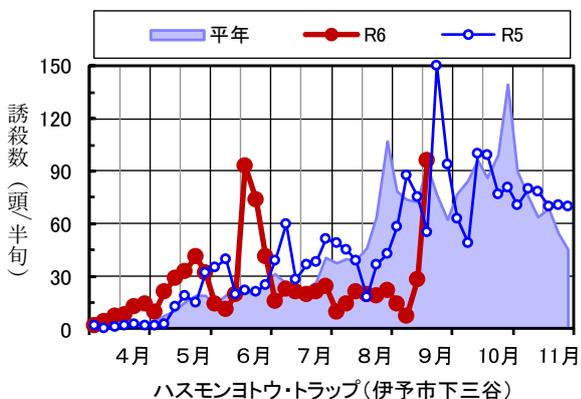
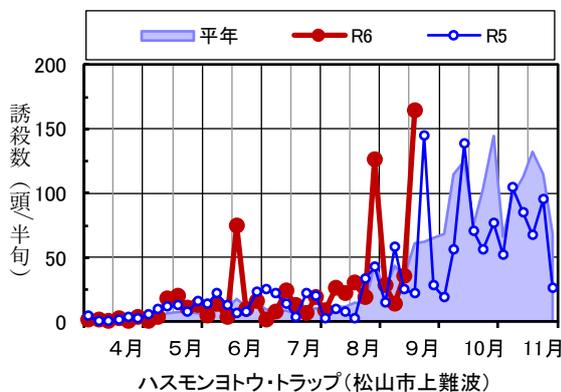
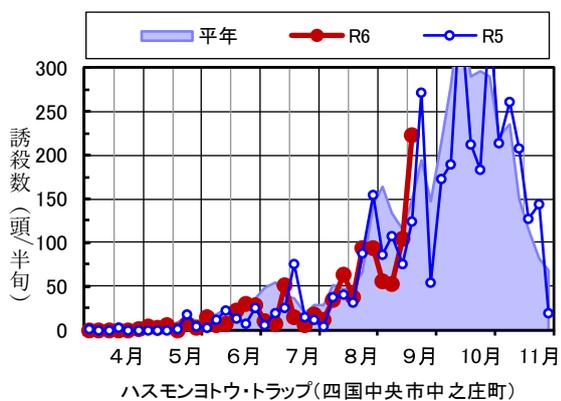
※1：1a当たりの白変個所数

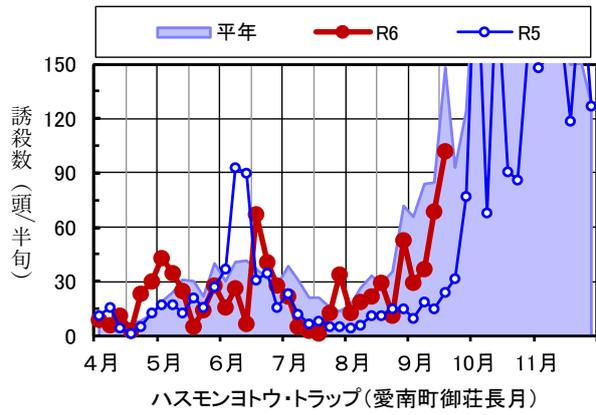
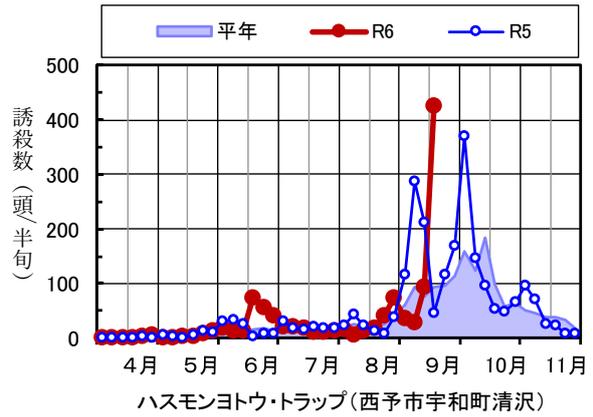
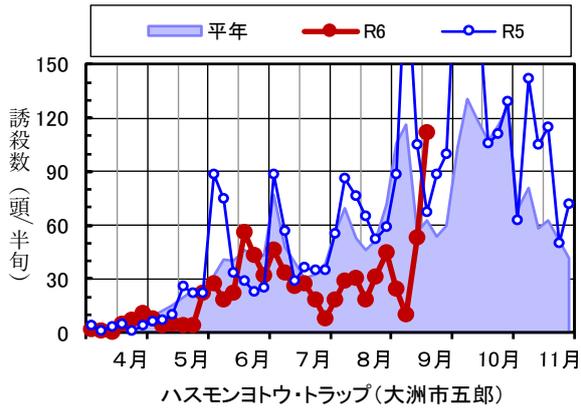
※2：食害度 = $\frac{(\text{食害面積率51\%以上の株数} \times 4 + \text{同26\sim50\%の株数} \times 3 + \text{同11\sim25\%の株数} \times 2 + 1 \sim 10\%の株数)}{(4 \times \text{調査株数})} \times 100$



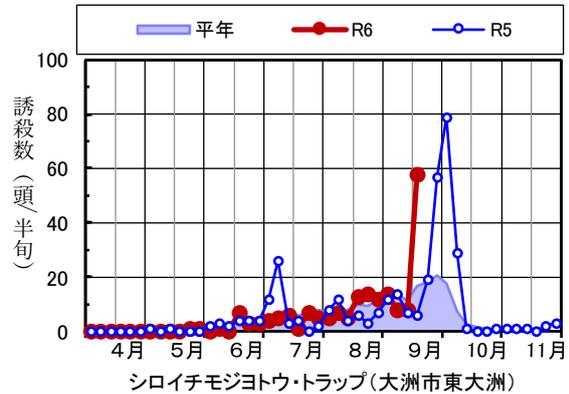
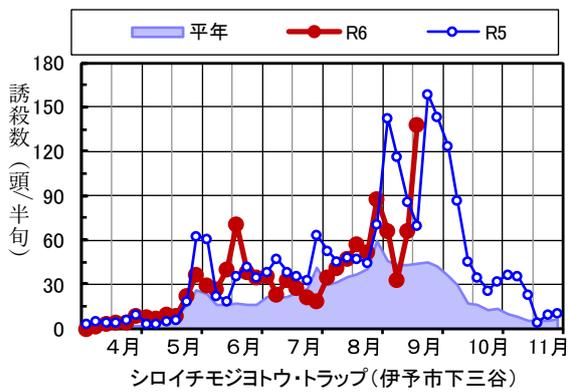
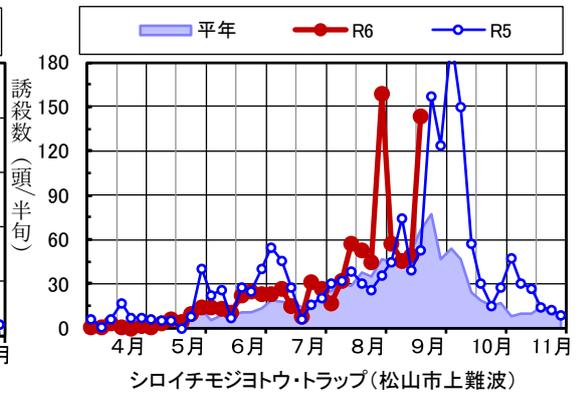
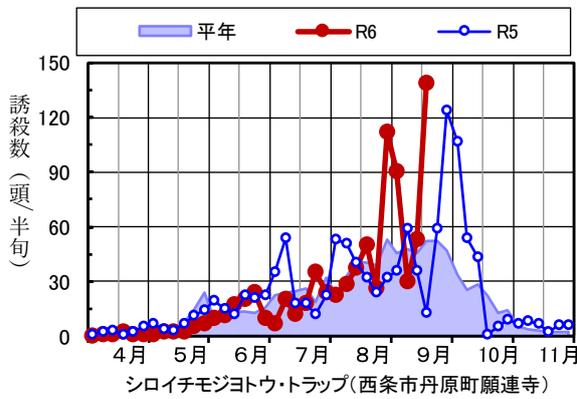
写真 左：大豆白変葉 右：集団加害の状況

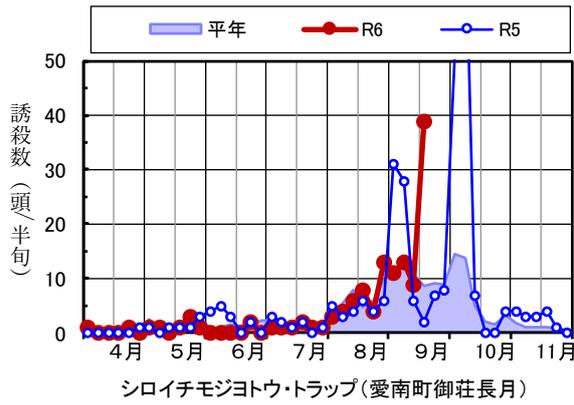
○ハスモンヨトウ（性フェロモントラップ誘殺数）





○シロイチモジヨトウ (性フェロモントラップ誘殺数)





○オオタバコガ (性フェロモントラップ誘殺数)

